

## 『企業成功の七大法則』

—京セラ 稲盛会長の講演から—



高井法博会計事務所

所長 高井法博

先日、かねてから御指導を頂いている俣マ  
ルエイの澤田社長より、創業一〇五周年記念  
講演会に、京セラ・第二電々の会長である稲  
盛和夫氏をお招きするので宜しかったら、と  
お誘い頂いた。

京セラの目覚ましい成長・発展は、類い稀

な卓越した稲盛会長の経営力にある。その会  
長から、企業を大きく発展させようとしたら  
まず次の七大法則を実行することであり、こ  
こまで行なえば誰でも中堅企業までにはなれ  
るとの話があった。多少、私見も混じえな  
がら紹介してみようと思う。

一、目的をはっきりさせる。

まず『明確な目標を設定する。』その次に  
そこに至る具体的小目標を決め実行していく  
ことである。例えば京セラの場合、まず事業  
を始めた時創業の地・原町一の企業に。次に  
中京区一に、京都一に、そして日本一、世界  
一にしたいと強烈に思い続けた。それこそ、

四六時中思い続け、その思いは潜在意識に届  
くまでにする。そうすることによって、人材  
や様々なチャンスに出逢った時、自分の味方  
にすることができると……。『強烈な願望』  
を抱くことが重要である。

二、誰にも負けない努力を続ける。

明確な目標を設定したからには、あとは努  
力しかない。目標を達成する為には、一歩一  
歩の地味な努力からしか生まれないことを理  
解して欲しい。一歩一歩の歩みでは、一生か  
かっても大したことはできないと思うかもし  
れないが、一歩一歩の積み重ねの結果が相乗  
効果を引き起こし、いつのまにかスバラシイ  
成果を生む。俺は誰にも負けないような努力  
をしている。気の遠くなるような際限のない  
努力を誰も見ていないようなところでやる。  
これが人生においても、企業経営においても  
夢の実現に至る唯一かつ確実な方法であり、  
これは強い願望を持っていて初めてできるこ

とである。

三、勇気を持って事にあたる。

一つのことを成し遂げるには、大変なエネ  
ルギーを必要とし、困難に立ち向かう大変な  
勇気が必要とする。事業を成功させるには、  
どんな激しい格闘技にも勝る闘争心が必要で  
ある。

四、創意工夫をすること。

成功者と不成功者の差は紙一重であるが、  
両者の間には越えがたい隔りがある。不成  
功者には粘りが無い。一応の努力はするがそ  
れは人並みの努力で、壁に行き当たると体裁  
の良い理由をつけ断念してしまう。粘りに粘  
ってやりぬき成功させるクセを身につけるこ  
とである。例えば、毎日「経費節減の方法は  
ないか？生産性の上がる方法はないか？」と  
考え、今日より明日、明日より明後日と毎日  
僅かずつの創意工夫をする。この連続が、他  
者では追従できない程の大変な差になっ  
てくる。

五、利益を直接追求しない。

事業はゲームだ、と思っている。売上を最  
大限に、経費を最小限にしようと考える。このよ  
うに、個々に分けて努力することにより結果  
的に利益が出てくる。

六、商いは、『誠実と思いやり』である。

決して悪いことはせず、正直でなければい  
けない。売った人も買った人も、事業に関わ  
った人すべてが喜ぶようなくてはいけない。

七、『常に明るく』『前向き』で、『希望と  
夢』を常に持っていること。

自分の未来は輝かしいと信ずること。暗さ  
否定的な言動、グチ、悲観的な表情や言葉は  
決して出してはいけない。常に明るく前向き  
であれば、周囲も明るくなり『運』もつく。

この七つを実践すれば中堅企業にはまずな  
れる。更に、大企業になるには小さな成功で  
自信過剰になるな。慢心するな。会社はトッ  
プの器量に比例する。トップの持つ心の大き  
さ、精神的成長が企業を大きくする。

経営者は、『決めて行く。』のが仕事  
である。決めて行った積りが人生の成果・結  
果となる。判断する時、『動機は善か、私心  
はないか。』に照らして決める。概略、このよ  
うな話しであったと思う。

昭和34年、資本金300万円で始めた中小  
企業がスバラシイ世界に誇る大企業に成長し  
て行く大原則が、ここにあると思う。別に目  
新しいことではなく、我々も常にそう感じこ  
の欄でも同じようなことを時々書いた。しか  
し、日本のいや世界の大成功者稲盛会長が言  
われると重みがある。知識として知っている  
だけでなく、何度も何度も自分自身に言い聞  
かせ、しっかりと潜在意識に叩き込み、目先  
の小さな現象・誘惑に惑わされないよう、成  
功哲学を自分自身の中で不動のものにしたい  
と思う。